

<p>マギダナオ州の避難民への医療支援</p> <p>昨年8月から続くミンダナオ紛争。無関係の女性や子どもたちが避難民となり、食糧配給も医療サービスも受けられない状態です。PIHS から子どもたちへの給食と巡回診療の計画が届きました。3ヶ所の避難所に仮住まいする 2500 名が対象です。ご協力をお願いいたします。</p>	 <p>2009年1月29日発行</p>	<p>NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS)</p> <p>227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11 TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933 E-mail: hands-ty@r07.itscom.net http://www.jca.apc.org/~hands/ 郵便振替口座 00210-5-72693 (加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会</p>
--	---	---

奨学生の初めての同窓会に出席して — 先住民族への教育普及支援の成果 —

昨年 5 月末の訪問時に、一部の奨学生や卒業生と「同窓会を開きたいね」と話したことが、CMIP 事務局の骨折りで実現することになり、それに合わせて 12 月 19 日にノビシエートを訪ねました。

HANDS が医療に続いて教育支援を始めたのは 1996 年 11 月です。これまでにカレッジや2年制の専門学校を修了した奨学生は 30 名を超えました。連絡が取れない卒業生も多いただろうと、期待せず 19 日の前夜祭に出席したところ、会場の CMIP 事務局エントランスには中退者を含めて 20 名が集まっていた。翌日駆けつけた 3 名を加えて合計 23 名です。交通費と寮宿泊費を HANDS で負担したのも出席率アップに役立ったようでした。



同窓会参加者(中央は CMIP デルクターノイ神父)

前夜祭は自己紹介と近況報告から始まりました。「3ヶ月休工場で働いたけれど、契約切れで今は無職で一す！」自己紹介一番バッテリーは、薬局助手コース卒のメリアンでした。

CMIP 運営の小学校で働く 5 名と、公立小教師に採用されたドリ、村議会の財務係スヌーリア以外は、いず

れもこのメリアンとほぼ同じ状況で、一時的にスーパーやクリニックで働いたことはあっても、今は求職中か家の畑を手伝っているとのことでした。

翌日は朝からゲームや出身地別の出し物で盛り上がり、昼食後は最年長のドリの周りに椅子を集めてミーティングが始まりました。2 時間後に会場を覗くと、黒板は次回同窓会開催日、会費、役員名、毎月の役員会日程などで埋められていました。「同窓会」を自分達で継続するための話し合いでした。会費の一部は後輩の奨学金に当てるといった一項もありました。

初等教育普及と助産師、教師、農業技術者等の育成ができれば、村全体の経済的自立の道筋が見えてくるだろうという HANDS の教育支援ビジョンは、村に戻っても生活できないという現実を前にして、再検討が必要となってきました。一度卒業生に集まってもらえば何かヒントを得られるかもしれないと提案した「同窓会」でした。それが後輩の奨学金制度維持のため、できることから始めようという方向に動き出したようです。

同窓会の熱気と興奮は、厳しい現実の前にいずれ醒めると思いますが、ドリ他数名の卒業生によるテキパキした会の進行は、これも立派な支援の成果であると思わせてくれました。(P4 関連記事)

.

すでに 54 号でお伝えしたように、PFP と実施しているブラクルのあしなが奨学金で育った教師たちも給与の一部月 250 ペソを拠出し後輩を支援しています。

本年も先住民族の子どもたちの教育支援に、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。(山崎)